

要求條件保留に關する聲明書

◇待遇改善の條項提出

昭和二年四月十日、本支部は總會の決議に依つて待遇改善に關する左記の條項を、野田醬油株式會社に提出した。

- 一、賃銀の一割増給、但女工は二割とす。
- 二、解雇、老衰、退職手當支給率は、從來の率に、勤続一ヶ月に就き日給一日分を加算すること。
- 三、桶工徒弟は、各工場に於いて一名乃至二名を、桶工全員の責任を以て養成すること。
- 四、年末賞與の最低額を、日給一ヶ月分と定むること。
- 五、入社より熟練工に達する年限を四ヶ年とする。
- 六、日雇工に對し、工員扶助規定を適用する事

◇要求條項の内容

第一項

野田醬油株式會社従業員現在賃銀は、大正十二年に定めたるものであつて、大正十三年一割増給の調停に依つて、時の千葉縣知事元田氏の調停に依つて、増給條項は保留となし、今日に至つたのである。賃銀の現在、男工最低九十錢、最高二百五十錢、釀造工は平均一圓、此平均一圓八錢、女工最低六十五錢、最高一圓二十錢である。既に大正十二年より滿四ヶ年を経過し、野田町の一般生活費の向上は、益々従業員日常生活を脅かすに至つた。而して野田醬油株式會社の經營状態は、財界不況の今日に於ても、尙相當の利益を擧げ、其基礎は至つて健全である。即ち大正十五年上半期貸借對照表を見るに、利益金九拾壹萬八千五百圓を計し、内六拾五萬六千五百圓を以て、舊株七分、新株五分の配當を行つた。大正十四年、資本金七百萬圓より參千萬圓に増資し、其方法は表面はともかく内容に於いて從來の利益をこれに充當したのであつて、結局實質は優に三割の配當にも該當するのである。我等の希望せる増給實施に要する金額は、一ヶ年約拾五萬圓を越へぬのである。されば第一項の要求は至つて妥當なるものと確信するのである。

第二項

現在賃銀の解雇手當は、勤続一ヶ年日給五十日分、二十ヶ年七十分、三ヶ年百日分の割合であつて、二ヶ年七十分、六百日分を支給する。退職手當は其半額、老衰手當は一ヶ年勤続四十日、二年五十六日、三年八十日の割合で二十ヶ年に至つて四百八十日分となつて居る。右は大正十二年の制定であつて、本組合各地支部に於いて得たる條件に比較して、第二項の要求は妥當なりと信するものである。

第三項

從來桶工の徒弟は、直接其親方に屬して居る關係上、技術の習得の上不便を感ずる事情があつた。故に今後は、會社の直屬となし桶工全員の責任を以つて、其技術の教導に當る事が、徒弟の爲めに良き結果をもたらし得るのである。

第四項

年末賞與は、從來より一定せず、昨年は最低二圓より最高五十四圓差であつたが、此最低を日給一ヶ月分と一定せんことを希望したのである。

第五項

熟練工に對するの期間は、一定せず、入社以

右諸項中の多くは、大正十四年六月希望案として會社に提出、爾來しばし是が實施を促し來つたものである。

◇會社の回答

右要求條項の回答は、四月三十日迄與へらるゝ様の條件を附したのであつたが、四月十六日會社に至つて條項の説明を行ひ、四月廿八日交渉委員小岩井相助外五名は、會社の希望に從つて會社代表者並木氏外五名は、正式に會見したが、會社代表者は、財界の不安に鑑みこの要求條項の撤回を希望せられた。依つて交渉委員は、會社が待遇改善に對する具體案を自發的に示す誠意を有するならば、喜んでこれを撤回しても差支へなしと答へた。然るに會社は其具體案を持たぬことを明らかにしたので、此會見は此處物分れとなつた。

四月三十日の再會見は何等得る處なく、五月二日第三回の會見に於いて、會社は左の如き回答案を示した。

一項に就いては、(一)健康保險組合の掛金、勞資共各百分の十五なるを、今後會社の負擔を百分の二十に増額し、従業員の負擔を百分の十となすべし。(二)明年の昇給時に際しては相當の考慮を拂ふであらう。(三)廢業を行ふようにしては如何。

二項は、應じ難し。

三項は希望に副ひ兼ねる。

四項はなるべく多く出度い積りである。

五項はなるべく希望に副ふ様努めたいと思ふ。

六項は承認する。

同日は再考を約して、五月四日第四回の會見が行はれたが、會社の回答は以前通りであつた爲めに、決裂の外なく分かれた。

◇調査委員會設置の提案

五月五日、支部總會を開催して一切の報告を行ひ、更に改めて左の如き提案を決議した。

要求條項に關する調査委員會設置
(會社が聲明書中に、會計帳簿の調査會云々であるは大なる誤解である。)

(一) 勞資及第三者各同数の委員によつて構成する。(第三者は勞資の協定に依つて定める)

(二) 要求條項が、妥當なりや否やの調査を行ふ。

(三) 勞資は此決定に従ふこと。

(四) 此委員會構成に關する細目は、勞資の協議に依つて定める。

五月七日右の提案に對して、會社は是を拒絶する旨の回答があつた。

五月八日一般委員會に是を報告し、交渉は遂に決裂の止むなきを豫想して、罷業に入る一切の準備を整へた。而して十日の第七回の會見も空しく終るや、砲くまで冷靜を守りし各工場委員會も漸く緊張し、全組合員は總罷業の決議を待つのみとなつた。

◇要求條項を保留す

五月八日、關東労働同盟會執行委員會を代表して、齊藤健一、仲濱藤治の兩氏來野し、本組合に對し左の理由に依つて、罷業の斷行を中止し、要求條項を保留せらる様の勸告があつた。即ち、本組合が、要求條項を提出せる後に於いて、日本財界は未曾有の混亂に陥り銀行の破綻相次ぎ

勸導同盟本部常任中央委員西尾末廣氏來野して、更に前記の如き勸告があつた。

されば本支部、對策委員會、委員長會議、一般委員會を漸次開催し、右勸告案を討議した結果、關東労働同盟會執行委員會並に勸導同盟本部常任委員の勸告を妥當なりと認め、總會に是を提案し、討論の結果多數を以つて可決され、罷業の斷行を中止し、要求案は保留することとなつた。然し乍ら、我等は今尚提出したる待遇改善案の正當なることを確信して居るのであつて、今後これが實施の要求は強く我等の主張する處である。

◇我等の態度を聲明す

思ふに最近に於ける財界未曾有の混亂は、多年我國資本家階級が、國民生活を無視せる罪惡の一端である。資本家階級の利己的精神は、遂に九億貳千萬の重税を國民に課し、壹千五百萬の預金者を泣かしため、數千萬の労働者を賃銀不拂ひの前に傾かしめたのである。而して又一方自己の利益の前に、は國家をダシに使つて増からざる資本家は、これを以つて唯一の口實となし、充分の財力を持ち乍ら労働條件改善の責任を逃れんとするのである。彼等に果たして國家を云々する資格ありや。經濟不安の際には、自己が如何に大なる利益を擧げつゝあつても、労働者の生活を改善するの必要は無いのか労働者に要求撤回を迫ることのみが、財界不安に處する道であつて、自己の利益の一部を以つて労働者の生活改善を行ふことは、財界不安を増大せしめる事であるのか！財界不安の際には、一切の善行を傾かすべからぬのか！

た、この際罷業を敢行することも、妥當であるや否やは別問題である。これとが、資本家階級が、國家に對する誠意を押し賣りして罷業を止むべき何等の理由も資格もない筈である。かかる誠意は、労働者の自發的發露に於いて始めて意義がある。我等は、國家社會に對して日常充分の責任を感じて居る。眞に日本の生命を建設するものは我等労働階級であることを確信して居る。罷業を行ふ時、或は止める時も、我等はこの確信に基づいて行ふのである。かかる意味に於いて我等は、日本労働同盟本部の勸告に喜んで從ひ、罷業手段に出でなかつたのである。

我等は、常になるべく闘争に訴へる事なく、勞資の協定に基いて、問題の解決を計る事が、其一貫せる精神である。而して乍ら、これが圓滿なる實現は、過去に於けるが如く資本家階級が、單に誠意なる言葉をお體裁に使ふ如きであつては、全く不可能である云はねばならぬ。かかる際には労働階級のあるべき手段は、只罷業のみである。茲に、待遇改善の要求を保留し、其實現を後日に期するに當り、我等の態度をあまねく天下に聲明する次第である。

終りに、先般新聞紙に發表せられたる會社聲明書中には、大なる誤解があるので、左の如くこれを訂正する即ち、

一、會社の帳簿其他の調査會を要求し云々とあるは誤りであつて、要求條項の調査委員會の設置を提案したのである。これに依つて、真正なる第三者の批判を加へ、消費者と、資本家と労働者の利害を合理化するとする我等の誠意である。此委員會に於いて我等の要求が妥當であるや否やを、充分研究して其決定に従ふと云ふことは堂々たる態度であること確信する。

二、要求を撤回したり云々あるけれども、